

ホテイラン

湯浅保雄



ホテイランの花



ホテイラン

ホテイランは多年性の地生ランで、ヒメホテイランの変種とされています。基本種のヒメホテイランは北米、ヨーロッパ、シベリア、アリユージャン、日本（北海道、青森県）に広く分布していますが、ホテイランは日本の中部地方の冷温帯から亜寒帯にのみ生育し、静岡県内では富士山と南アルプスに分布しているものです。長さ3～5cmの表面や縁に縮れのある葉を一枚付け、4から6月頃花茎を伸ばして、その先には淡紅色ときには白色の大きな花を1個着けます。

花が美しいので愛好家が多く、これまで多く採取され、販売されてきました。しかし、暑さと湿度不足に弱く、寒冷地でも菌根菌との共生が必要ですので栽培はほとんど不可能です。また、種子からの繁殖技術も確立していませんので、販売されている山取個体を買っては枯らし、買う人がいるからまた山取するという悪循環が繰り返されてきました。また、美しい花を写真に収めようとして開花個体の周囲に生育している小さな個体に気づかずに踏みつけて損傷する場合も数多くあります。

国や県の絶滅危惧種になっていますが、静岡県ではそれだけでは減少が食い止められないと、希少野生生物保護条例に基づいて、平成24年4月にホテイランを条例指定種としました。その結果、知事の許可なしでは採取は出来なくなりましたし、また開発等で生育地を破壊せざるをえない場合には移植等で保全しなければならないことになりました。

いま、南アルプスの直下をリニア新幹線を通す工事が始まるうとしています。その工事予定地にホテイランが生育していることが判明しました。それらのホテイランは移植ということになりますが、地生ランは種ごとに決まった菌根菌と共生していますから、その菌の繁殖していないところに移植しても生育は不可能です。また、多年生といっても寿命は短いようですので、移植個体が数年生きていても、それで移植が成功したとは言えません。開花結実して、その種子から新しい個体が誕生して初めて移植完了なのです。

ホテイランの移植には、菌根菌、寿命、発芽条件、生育環境など分からないことが多くあります。今回のリニア新幹線の工事を契機にそれらのことが解明されれば、今後ホテイランの増殖が必要になった時に役立ちますので、事業者であるJR東海には大いに期待したいと思います。